

教員名	高橋 美佐	所属学科	地域づくり学科
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b></p> <p>社会や日常で観察されるさまざまな現象を定量的に分析し、数学的アプローチをもとに現象の特性を明らかにして、問題の解決につなげることを目指します。</p> <p>ゼミでは、不確実な現象を扱う確率論、データを分析する統計手法、コンピュータ上で現象を擬似的に再現するシミュレーションなど、数学とコンピュータを社会の問題に応用するための基本的考え方と方法を学び、個々のテーマで実践します。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b></p> <p>2年後期～3年では、入門的なテキストを輪読して、確率・統計を中心とした数学やシミュレーションのためのプログラミングに関する基礎的知識を習得します。輪読は、担当者が交代で担当箇所の内容を解説し、共通のテキストを読み進めるスタイルです。担当者はテキストをただまとめるだけでなく、自分で考えて理解したことを図やたとえなども用いながらわかりやすく伝えるよう工夫します。そして、解説の中でわかりにくかったことについてお互いに確認しながら全員の理解を深めます。さらに、応用できる身近な場面を考えたり、意見を出し合ったりします。</p> <p>3年終盤以降は、ひとりひとりがテーマを設定し、必要な専門的知識を補いながらそれぞれの問題に取り組み、卒業論文にまとめます。</p> <p>どの時期においても、ひとりひとりが準備してきたことを報告し、その報告について議論するスタイルが基本です。</p>			
<p><b>【学んだことはどのように生かせるのか】</b></p> <p>ゼミを通して身につける数理的なものごとを捉える力、論理的に考える力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力が必要とされるのは、特定の業種に限られるものではありません。卒業生の進路はさまざまです。</p>			
<p><b>【おすすめの入門書・基本テキスト】</b></p> <p>『混雑と待ち』高橋幸雄・森村英典著（朝倉書店）</p> <p>『オペレーションズ・リサーチ入門』松井泰子・根本俊男・宇野毅明著（東海大学出版会）</p>			
<p><b>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</b></p> <p>学生時代はたくさんの自由な時間に恵まれている時代です。興味のあることに集中したり、新しいことに挑戦したり、いろいろな経験をしながら、知識と経験から気づく何かについてじっくり考えてみましょう。</p>			